

stage



さて、劇団夢遊病社旗揚げ公演「今宵の月の様に」の劇評を仰せつかったしまった訳ですが、私が拝見したのは2日目、9月11日夜の部。演劇界にとって旗揚げ公演がどのような意味合いを持つのか、この手の業界に疎い私には皆目検討がつかないので、これから述べるのが失礼に当たったらどうしましうかしら、とおっかなびっくりなのだが。

私事ではあるが、自分では「自我」が弱い方だと思っている。(ここでは)人間としては無く、表現者として。ある程度、環境やニーズに合わせる事ができるが、その為パーソナリティーが伝わりにくい、いわゆる「器用貧乏」なのだ。自身は「ハード」であり、

「ソフト」を必要とする。この点について、いつも悩んでた。最近になって開き直り気味、表現者なんてものはみんなそんなもんなんじゃないかと。

では、この舞台において、演出側と出演者側の関係はどうだったろうか。私には演出側に強烈な自我を感じた。誤解されかねない表現だが、それはいわゆる「エゴ」とは大きく異なる。懐の深さというか。あなたがこう来るなら、俺はこう答える、そういうやり取りが対各出演者、対スタッフ、さらには対観客、対世間と幾重にも繰り返り広げられていた様に思われた。外部の人間がイメージする「舞台演出」つてのは、長机に肘付けて、

時に大事なことは、「個性のぶつかり合い」である(何か浅はかな表現で自己嫌悪だけ)。自我の主張に終始して互いの個性を潰し合っている、そこには何も生まれない。彼の「パンプ」が、旗揚げ公演として劇団員のパーソナリティーのお披露目に重要な役割を果たしていたと感じた。演出側ハード、演者ソフト、となり兼ねない環境を、彼の「パンプ」が見事に打破していた。

当然、この公演の成功は演出側だけに起因している訳ではないだろう。演者も演出側の要求に屈することなく、かといってつっぱしるでも無く、綺麗に「パンプ」していた。

複人数で仕事をする時に、この「パンプ」が如何に重要かを再認識させられた。他者の存在で自我が崩壊するようでは、この場合は我が儘にすぎないし、クリエイターにとつては邪魔以外の何者でもない。所属員が綺麗にパンプを取れる組織は、内外ともに対して目的意識が明確になる。目的意識が明確に見えない組織は負け組になる可能性が高い。

今回の公演は旗揚げ公演として

愛のハードパンプボーイズ

演劇空間スペースベン

〈文〉タケヤユウヘイ(音楽エンターティナー)〈

成功を収めたと言えるだろう。次なる課題は、劇団員の劇団内活動と劇団外活動との差別化であろうか。「劇団夢遊病社」でしか体験することができない何かを如何に築き上げ、それをマスに向けてどのようか、期待せずにはいられない。

なんて、偉そうな事たくさん書いてしまいましたけど、街で会ったら優しくして下さいね、ミナサマ。今回の舞台、とても楽しませていただきました。それから



10月の Friday Amusement Negative Shop

■10月1日 (556回)
■10月8日 (557回)
■10月15日 (558回)
■10月22日 (559回)
■10月29日 (560回)
全てオープンライブ

○FANS番外篇
■10月3日(日)
西尾まさきブルースライブ
開演: 19:30
料金: 2,000円

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによるジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っております。

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売

Space BEN

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-11-8
TEL 03-5908-9120
FAX 03-5908-9120

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスでご確認下さい。